



特徴

生育の適温は16〜21℃と高温で、比較的低温に弱い。そのため、まき時をしっかりと守ることが大切です。育苗管理を入念に行い、大株の苗に育ててから植えつけましょう。

栽培のポイント

①種は高温下では発芽しにくい。夏まき栽培では、あらかじめ涼しい日陰などの低温条件で芽を出してから種をまきましましょう。

②野菜のなかで

最も肥沃な土壌を好む。元肥として完熟堆肥、有機質肥料、化成肥料を十分に施し、15〜20日おきに数回追肥をして、常に肥料効果を落とさないように、多肥栽培を心がけましょう。

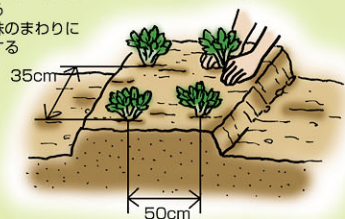
③乾燥には注意が必要

乾燥にとっても弱い。ため敷き藁をしっかりと行い、常に灌水を怠らないよう気をつけましょう。

④病害虫防除

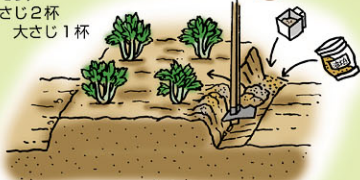
若い葉や外葉の裏に、アブラムシがつきやすく病気が発生しやすいので、薬剤を散布して防ぎましょう。

苗床からは土をたくさんつけて苗を抜き取り、ていねいに植えつける。植えつけたら株のまわりにたっぷり灌水する。



4 植えつけ

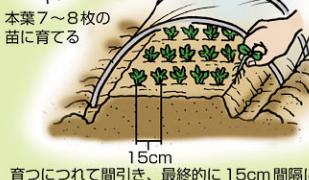
〈1株当たり〉
油粕 大さじ2杯
化成肥料 大さじ1杯



肥料が不足しないよう15〜20日おきに追肥する

5 追肥

種は芽がのぞいたところ、芽を傷めないようにていねいに、0.7〜1cm間隔にまく



育つにつれて間引き、最終的に15cm間隔にする

布に包んで涼しいところに2〜3日置く(25℃以下)

布の上にごぼして水を切る

1 苗づくり

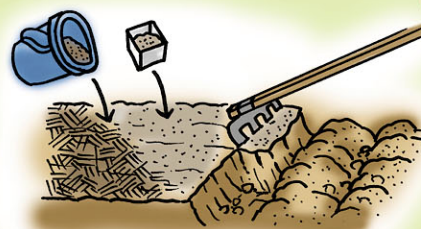
一昼夜水につける



苗床には強光による昇温を防ぐため、遮光資材をかける。細かい目のふるいで種がやとみえなくなるくらい薄く覆土する

2 畑の準備

〈1㎡当たり〉
堆肥 バケツ1/2杯
石灰 大さじ3〜5杯



前作は早めに片づけ、石灰、堆肥をまいて25〜30cmの深さによく耕す

7 収穫

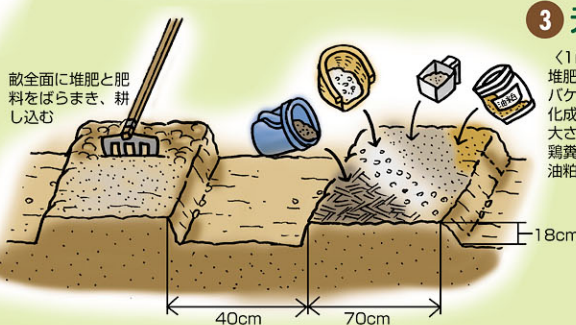


小さいときから長く利用するには、あらかじめ密植しておく。草丈30〜35cmくらいになったものから逐次収穫、利用する

6 管理



多くの水分を必要とするので、夏の晴天が続くようときにはたっぷりと灌水する



3 元肥入れ

〈1㎡当たり〉
堆肥 バケツ1/2杯以上
化成肥料 大さじ5杯
鶏糞 3〜4握り
油粕 大さじ5杯

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種まき						6	7					
植えつけ							7	8				
収穫期											11	12